

令和 6 年度
群馬県地球温暖化防止活動推進員
活動報告

群馬県 環境森林部 環境政策課

基本データ

- 委嘱人数
158名（令和7年3月31日時点）
【地区別内訳】

中部地区	: 59名
西部地区	: 38名
吾妻地区	: 16名
利根沼田地区	: 16名
東部地区	: 29名
- 委嘱期間
令和5年5月17日～令和7年3月31日
- 令和6年度活動報告書提出者数
133名 (84.1%)

1. 日常生活における実践 (自らが取り組んだこと)

	人数 (人)	割合 (%)
節電・省エネ行動	115	72.7
スマートムーブ（公共交通機関・自転車・徒歩での移動、エコドライブ等）	96	60.7
環境にやさしい買い物（マイバッグ利用、地産地消、てまえどり等）	110	69.6
プラスチックごみ削減	92	58.2
食品ロス削減	108	68.4
5Rの実践	67	42.4
その他	20	12.6

※割合は推進員全体（158名）に対する割合

1. 日常生活における実践 (自らが取り組んだこと)

～その他の具体的な内容～

- ・道路のゴミや缶拾い
- ・家の庭の緑化
- ・大学で環境関係の講義を受講
- ・燃費の良くない乗用車を処分
- ・生ゴミの処理方法の工夫（乾かしてから捨てる、畑に埋める、コンポスト使用等）
- ・グリーンカーテン
- ・生ゴミ・落葉の堆肥化
- ・スポGOMIへ参加
- ・太陽光発電の導入・使用
- ・薪ストーブの使用
- ・おひさまエコキュートの導入
- ・地産地消を心掛ける
- ・雨水を利用
- ・ソーラークッカー使用
- ・カーボンオフセットガス料金を導入

2. 研修や会議等への参加 (他者の企画に賛同したもの)

	人数（人）	割合（%）
群馬県及び群馬県地球温暖化防止活動推進センターが開催する研修や講演会等	91	57.5
国、市町村が開催する研修や講演会等	55	34.8
民間企業が開催する研修や講演会等	27	17.1
市民活動団体が開催する研修や講演会等	30	18.9
推進員が各地区で開催する地区会議等	34	21.5
その他	9	5.6

※割合は推進員全体（158名）に対する割合

2. 研修や会議等への参加 (他者の企画に賛同したもの)

～その他の具体的な内容～

- ・環境カウンセラーズぐんま主催の研修会
- ・伊勢崎市いせさきGX推進市民協議会
- ・土壤汚染対策、耕作放棄対策の勉強会
- ・市町村の地球温暖化対策に関する協議会
- ・小学生を対象とした環境教育セミナー
- ・炭素会計アドバイザーセミナー受講

3. 普及啓発活動 (自ら企画したもの)

	人数 (人)	割合 (%)
各種セミナー・研修会・出前講座等の講師を務めた	32	20. 2
各種イベント等に出展、協力した	41	25. 9
地域住民、勤務先、所属する団体等において普及啓発活動を実施した	54	34. 1
広報誌・会報誌の作成や投稿、ホームページ・SNSを通じて普及啓発活動を発信した	33	20. 8
その他	7	4. 4

※割合は推進員全体（158名）に対する割合

3. 普及啓発活動 (自ら企画したもの)

～その他の具体的な内容～

- ・脱炭素ゲームの開催
- ・SDGsファシリテーターとして活動
- ・先進施設見学会の規格運営
- ・大学での講義
- ・伊勢崎市長に対し「GX推進提案」を実施
- ・クールシェア啓発活動
- ・群馬県地域環境学習事業の企画運営
- ・市内コンビニで啓発活動
- ・市町村のイベントでの展示啓発活動
- ・市町村職員との意見交換
- ・地区の清掃活動への参加
- ・市内小学校での講義

4. 活動内容

- ・市町村の出前講座の講師
- ・大学での講義
- ・親子環境教室
- ・スポGOMI in伊勢崎に参加
- ・脱炭素まちづくりカレッジファシリテーター
- ・省エネセミナーや脱炭素支援セミナー、エコクッキング、環境GSマネージャー研修の講師
- ・植林・緑化活動
- ・大学のホームページに啓発ページを作成
- ・小学校で温暖化に関する講座
- ・市町村の環境に関する講座や群馬県地球温暖化防止活動推進センター等が主催するセミナーへの参加
- ・市町村のイベントやぐんま環境フェスティバル等への出展
- ・群馬県環境アドバイザーとしての活動（部会、環境フォーラム）
- ・群馬県地域環境学習事業の企画運営
- ・足尾に苗木をおくる活動
- ・脱炭素やCO₂排出量に関するワークショップ

4. 活動内容

- ・環境にやさしい買い物スタイルの店頭啓発活動への参加
- ・フードドライブの実施
- ・職員へエコドライブを啓発
- ・地域の環境委員に啓発・指導
- ・市町村の広報誌で啓発記事を掲載
- ・市町村の審議会に委員として参加
- ・地元スーパーと共同し、売れ残り食材などを利用した子ども食堂を実施
- ・省エネ安全運転研修会の開催
- ・先進施設の見学と意見交換会
- ・「トラックの森」づくり事業
- ・ラジオのエコ番組の制作
- ・道路・水路等清掃活動
- ・不法投棄の廃棄物撤去
- ・国や業者と連携して水質検査
- ・社内環境教育研修の開催
- ・大学生による森林保護活動への協力
- ・木育キャラバン
- ・炭素会計アドバイザー3級取得

5. 感想・意見・情報提供等

- ・最近「家庭用太陽光発電」事業の活動がめっきり低調になっている気がする。群馬県は年間日照時間が国内でも大きいので、もっともっと活動が活発になるよう期待している。
そのためにPRしたこととして、設備費用を多くの県民にもっと知らせていくこと。それに伴う補助金も各自治体の一覧表など作成してPRしていくたい。
太陽光発電と共にちからをいれていきたいのが「蓄電池の導入」がある。こちらも一緒にもっとPRが必要であろう。
- ・省エネルギーは電気の節約（節電）と太陽光発電は認知度が高く、多くの方々は理解しやすいが、その他の化石燃料・原子力・水力・水素等についてはまだまだ理解が難しいのが現実のようである。
- ・各地域（市町村）の行政が開催するセミナーや補助金／助成金の情報が共有できれば良いと思います。財政の差もあるので一概には言えませんが、市民や企業にとって取り組むきっかけや優位性がある施策が県内に広がれば全体の底上げになるのではないしょうか？

5. 感想・意見・情報提供等

- ・太陽光発電施設そのものは、地球環境にとって有意義な施設だと思いますが、一方で、農地の太陽光発電施設への転用が多く見受けられている現状について周辺環境への影響を併せ、不安を感じます。
小水力発電施設については、待矢場両堰土地改良区で設置した施設を見学しましたが、農業用水の有効利用として、大変すばらしいものと思いました。
- ・「エネルギー地産地消」を事業として取り組んでおりますが、上野村の脱炭素先行地域の活動に対して協力させていただくことになりました。
その中心となって活躍されている方との交流もあり、連携活動として講師招聘を行い講演会開催に結びつけることができました。
今後も自己研鑽につとめながら、推進員として努力していきたいと思います。
- ・本当に電気自動車が地球温暖化防止になるのか？また、費用をかけて既存の建物を改造することで地球温暖化に貢献できるのかにまだ疑問が残る。
こうしたことをしっかりと学びたい。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・「地球温暖化防止」や「脱炭素」と聞くと堅苦しく聞こえたり、何に取り組んだらよいか分かりにくいように感じられたりすることが、市民や企業において脱炭素の取り組みの優先順位が上がらない一因になっているのではないかと考えている。
一方で、昨今の物価高騰により、特に光熱費や燃料費等の削減に関心が高まっていると感じる。省エネの工夫や再エネの導入により、日々の生活や事業活動において節約・経費節減というメリットが見込まれることをアピールして、家庭や企業における取り組みの拡大につなげていきたい。
- ・個人や1団体での活動には限界があるので、テーマを同じくする他の団体等と幅広く連携協議することが必要。
また、環境分野以外の福祉や農業、防災、教育などに取り組む団体・個人とも連携することが必要。
- ・水産試験場との共同作業により、情報交換が可能になった。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・国民は大雨被害や熱中症で、地球温暖化は意識していると思います。日本だけでなく、世界中の国が同じ目線で対応していかないと、次の時代から食生活やくらしが変化してきます。
今こそ、危機感をもって出来ることから、一歩一歩活動していきたい。
- ・地球環境への影響だけでなく、特に野生動物への影響について、機会あるごとに伝えており、年々、関心は高まっていると感じています。
- ・事業者、一般市民の切迫感はほとんどないことを実感している。
生活変容、ビジネス変容が今こそ必要であるので微力ながら訴えていきたいと考える。
- ・展示用パネルが専門的なので、もう少し一般の方にわかりやすい内容に簡素化しても良いかもしれません。
片亀センター長と若い世代の対談の企画を提案したいです。
環境フェスティバルで高校生からの直球質問の連続がありましたが、若い世代が興味を持つ、知識を深めるような回答をされており、企画として形にしていただきたい。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・市民一人ひとりが自分事として地球温暖化問題を捉える必要があり、そのためには、市民目線により、気軽に私たちが身近にできることを、解りやすく見やすく解説してメディアやSNSも使って情報発信していくことが必要と考えます。
行政で対応可能な政策には限界があるとも考え、市民一人ひとりの地道な意識改革による対応が課題解決のカギとなるものと考えます。
- ・興味深そうに話を聞いてくれるが、実生活に結びつかない人が特に高齢者に多い。いかに高齢者を動かすかが目標達成のカギだと感じる。
- ・カーボンニュートラルの実現についてまだ無関心の方が多く、どのようにしたら多くの方が関われるのか考えていきたい。
- ・環境サポーターとして小学校にての環境問題にお話をさせて頂いておりますが、小学生の頃から環境問題に意識を持って学んでくれるのは頼もしく、嬉しいですね！

5. 感想・意見・情報提供等

- ・コロナ禍以来、取組が難しくなっていることを感じる。特に、省エネ、公共交通の利用は進まない。
今後、楽しく取り組めるための工夫や、参加しやすい体験会などができるとよいと考えている。
- ・群馬県として、地球温暖化防止活動は、一生懸命やっているのは目に見えてわかるが、一般の人（特に高年齢者）は関心が薄いように感じた。
- ・推進員の活動は、積極的に取り組んでいる人と、名前だけ登録している人に二極化しているようです。また、会議や講演会は平日に前橋市で開催されることが多く、東部地区からの参加が難しい状況です。特に、比較的若い方は仕事の関係で平日の参加が困難なため、次期からはオンライン併用の実施を検討していただきたいと思います。
- ・出前講座など、推進員が企画・集客はなかなかハードルが高いので、企画として日時・場所・テーマなどを設定して報知いただければ、講師やスタッフとして参加できます。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 地球温暖化（気候変動）防止は、世界的（地球全体）の課題であり、一回、一地方、個人でのとりくみがどれほどの効果があるのかもどかしい感もします。 私個人としては35年ほど前から「利根西環境フォーラム」の活動を通じ、地域の環境問題に取り組み、エコクラブの子どもたちと、地球温暖化の問題を考えてきました。今ようやく地球温暖化の問題が常識化してきましたが、ここへ来て、2030年、2050年問題がとりざたされ、CO₂対策が具体化されています。 しかし現下、国際情勢をみると、経済的対立、武力的対立（戦下）の不安さえ感じ、2030年、2050年問題はどこかへ吹きとびそうです。 私個人第一期の温暖化防止推進員（当初は指名制で10人）で、センターの立ち上げ、NPOの結成と頑張ってきましたが、いつのまにか80歳代半ば、そろそろ限界に来てはいますが、温暖化防止は一生かけて取り組む課題と考えています。出来れば早急に20～30代の若い世代の参加と活動を期待、願うものです。
- ・ 推進員の活動のあり方を、継続して検討する必要がある。
- ・ 気候変動に対する地球温暖化防止の持続的活動の必要性及び関心が生活者に余裕がないため薄れていると感じる。

5. 感想・意見・情報提供等

- 私はできる限り、講演や研修に参加していたが、それだけでなく、家庭で省エネや腐葉土作り、生ゴミ処理、地域の清掃活動をしてきました。
しかし、毎年欧洲などに行ってみると、例えば、イギリスは火力発電所を廃止、フランスはレジ袋とレシートの廃止、独は原発の廃止といったように、政府や自治体が法律で再生エネルギーに取り組んでいる。
このことを考えると一人で取り組んでいることに無力感を感じます。地域で呼びかけても、効果がありません。もっと、自治体が条例を作って取り組んでほしい。EV車にかえようとしても充電ステーションが少なすぎます。水素ステーションも同様です。
また、ペロブスカイト太陽電池の開発と普及も必要だと思います。
- CO₂削減は、緑（植物木々など）を増やすことにより効果がある事を再確認。植物はCO₂を吸ってくれるのでおおいに役立つ。真剣に考えて取り組むべき事であり、もっとPRし広報すべきと思った。角度を変えて考えるべき環境問題だ。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 地球温暖化防止活動推進員の基とも言える群馬環境アドバイザーの活動に改めて参加しました。環境アドバイザーの部会活動、のりのり学会等活動など横の繋がりもあります。その過程を追うこと、今に至り、今後にか関わっていきたいと考えています。特に環境やまちづくりなどは専門家に委ねられていたことが多いので、やはり、そこに住む人、人（一般県民）が主体の環境やまちづくりとなってほしいと願っています。
- ・ 令和6年度も「脱炭素まちづくりカレッジ講師」や「環境学習サポーター」、「マイCO₂シミュレーター体験会」などで県内各地で活動しましたが、割合と小中学生など若年層が環境に対する関心が全体的に高いように感じられました。
私自身は県内でイベント出店しているので、令和7年度は「脱炭素まちづくりカレッジ」や「マイCO₂シミュレーター体験会」の機会を増やして、より広く一般の方に地球温暖化防止や脱炭素についてのアクションを起こしてもらえるようにしたいと考えております。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・年間を通して、外でボランティア活動をしている私が感じる事は、最近の「日本の四季」が感じずらく、区別しずらくなった事です。例えば、イチゴ、キュウリのように、本来は四月五月から取れるものを冬にビニールハウスの中で特別なエネルギーを使用して収穫する事が日常になっている事に私は不安を感じます。余計なエネルギーを使用する事で地球の温暖化を進めます。今さらとは思うが、それでも問題視するのとしないのでは将来に違いがでます。
もう一つ心配事として、最近は庭に植木を植える人が少なくなりました。庭をセメントで固め植木が一本も無いのです。夏はセメントで庭が暑く、冬は寒い。各家庭から出るCO₂も木が有ればこそ少しでも吸収されます。これから生まれてくる子供が生きていきやすい様に、皆で温暖化を遅らせる様注意をしましょう。
- ・地球温暖化対策には興味が有り、2年間大変有意義でした。私的には、1500whの蓄電器を購入し、自家発電気の利用を行ったり、廃品回収に積極的に協力しゴミ削減に勤めました。これからも自分にできる事、地域でも広められる事を推進して行きたい。

5. 感想・意見・情報提供等

- 他の方がどういう活動をしているのかがわからないので連携しようにも難しいです。推進員の集まりや情報交換会があると良いのですが、あっても参加者が非常に少ないので残念に思っています。他の地区ではどうなのか、地区代表者が出席しているはずの連携会議の報告もありません。推進員の交流会とかしていただきたいです。
- 脱炭素と地球温暖化防止活動に関するレクチャーを、本学担当科目の授業の一環として取り入れました。若い学生たちへの関連情報の提供とそれに基づき、①地球環境の未来を具体的に想像すること、②自分ができることはなにか？ということを議論し考える機会を創出することができました。若い世代に対する啓発と意識醸成の促進をすることができたことは幸いでした。貴重な機会をいただきまして、ありがとうございました。
- 現在、緑のインタークリターとして活動しています。小中学生と自然観察等行いながら、地球環境問題について必ず話をするようにしています。この1年自動車の燃費を意識した運転をしてきました。回転数を上げない運転をすると驚くほど燃費がよくなりました。これからも頑張ります。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・出前講座を行う上で感じたのは、教育界とのコミュニケーション不足と現場の先生との環境に対する温度差です。教育現場では、目の前のことと精一杯で環境等まで手が回らない感じがします。
また、われわれも子供たちの教育内容に踏み込んでどこまで勉強しているのか調べる必要があると思います。その上で、発表資料を構築する必要があります。
- ・群馬県緑のインタークリター養成講座を受講し、自然体験活動指導者（NEALリーダー）を取得しました。令和7年度群馬県緑のインタークリターとして活動登録し、フォレストリースクールの活動に携わります。
地球温暖化防止活動推進員の活動とあわせて、両者で学んだことや活かせることを上手く関連させて活動の幅を広げていきたいと思います。
- ・数年イベントに出展していますが、回を重ねるごとに来場者様の省エネ意識が高まっていると感じています。少しずつの変化ですが、継続してお伝えしていくことによって効果が出ていると感じていました。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 今年度から地球温暖化防止活動推進員をさせていただいたいて、環境への高い意識を持っている方々と接する機会が増え、とても良い刺激になりました。私自身も紙・ペットボトルの分別や生ごみの水切りなど、小さなことですが環境への負荷を減らすための行動を取るよう意識が変わりました。これからも、環境への知識を深め、地球温暖化防止の一助となれるように活動していきたいと思います。
- ・ なかなか、町内を出ての活動はできていませんが、群馬県水源の町として、大事な考え方を身近なカタチで実体験していただき、自ら考えていただけるきっかけになれば良いかと思います。みなみの水源を守ることが群馬県、利根川水系を守る意識に変わり、ごみの削減や環境への配慮、ひいては行動変容を起こすきっかけになることを願っています。それがまた、町を、地域を誇りに思うことにつながると思います。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・今年度においては、なかなか地球温暖化防止活動推進員として活動できなかつたと感じている。
なお、地域の祭りにおいて、ごみ減量化と地域福祉の観点から「フードドライブ」を呼びかける活動に参加した。提供のあった食品を福祉団体へ寄付を通じて、ごみ減量化等にわずかながら貢献できたと感じた。
- ・電気料金の高騰、ガソリンの高騰などで家計に直接響いてきたので、節電やエコに対する意識がものすごく上がった一年だった。
- ・モデル出前講座の機会がないこと、または機会を作れなかつたことは、このたびの委嘱期間での反省点です。
モデル出前講座を通じての普及啓発や、自己のブラッシュアップなどを期待していますので、今後の課題として取り組みたいと考えています。

抜粋して掲載しております。
たくさんのご意見・ご感想をありがとうございました。